

## 県立高等学校の活性化

### 1 県立高等学校活性化計画

県立高等学校の活性化については、平成 29 年 3 月に策定した県立高等学校活性化計画（計画期間は平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間）をもとに取組を進めています。

#### (1) 計画のポイント

- ① これからの社会で必要とされる資質・能力を育む観点を重視し、新学習指導要領で位置づけられる「主体的・対話的で深い学びの実現」や「カリキュラム・マネジメント」の考え方をふまえた取組を位置づけたこと
- ② 人口減少や生徒数の大幅な減少が見込まれる中、高等学校活性化の取組に、地方創生、地域の担い手育成の視点を取り入れたこと
- ③ 1 学年 2 学級（3 学級も準じる）の高等学校については、地域が一体となって活性化を図る枠組みを設けたこと

#### (2) 県立高等学校活性化計画の基本的な考え方

- ① 新しい時代を生き抜いていく力の育成
  - ・ 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）への転換、自立する力、共生する力など、これからの時代を生き抜いていく力の育成
  - ・ さまざまな価値観や背景を持つ人々と協力して課題を解決するコミュニケーション能力の育成
  - ・ 地域や文化、産業における三重の持つ特徴を未来に継承する人材の育成
- ② 生命を大切に作る心を育み一人ひとりに応じた教育の実現
  - ・ 自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識を育む教育の推進
  - ・ いじめや暴力行為等の未然防止、不登校生徒の支援
  - ・ 学び直しや特別な支援が必要な生徒、経済的に不利な環境にある生徒への支援
- ③ 人口減少社会における高等学校のあり方
  - ・ 学校の魅力向上により生徒や保護者から「選ばれる高等学校」をめざす
  - ・ 学校と地域や産業界が相互に協力して活性化を推進
  - ・ 学校の規模や配置、学校のあり方について学校規模を維持する視点と地域の担い手育成等の視点の両面から総合的に検討
- ④ 学校の組織力と教職員の資質の向上
  - ・ 学校マネジメントによる学校運営の継続的な改善
  - ・ 学びの質や深まりを重視した授業改善や生徒のニーズに応じた的確な指導
  - ・ カリキュラム・マネジメントの考え方を重視した学校の組織力向上

## 県立高等学校活性化計画の構成

### 次期計画のポイント

- ①これからの社会で必要とされる資質・能力を育む観点を重視し、次期学習指導要領で位置づけられる「主体的・対話的で深い学びの実現」や「カリキュラム・マネジメント」の考え方を踏まえた取組を位置づけたこと
- ②人口減少や生徒数の大幅な減少が見込まれる中、高等学校活性化の取組に、地方創生、地域の担い手育成の視点を取り入れたこと
- ③2学級の高等学校については、地域が一体となって活性化を図る枠組みを設けたこと

#### 1 はじめに

#### 2 県立高等学校をめぐる現状と課題

- (1) 社会の変化
- (2) 教育をめぐる動き
- (3) ニーズの多様化
- (4) 中学校卒業生数の減少

#### 3 県立高等学校活性化の基本的な考え方

- (1) 新しい時代を生き抜いていく力の育成
- (2) 生命を大切にする心を育み一人ひとりに応じた教育の実現
- (3) 人口減少社会における高等学校のあり方
- (4) 学校の組織力と教職員の資質の向上

#### 4 県立高等学校活性化のための取組

##### (1) 新しい時代に求められる学びへの変革

- ①主体的で深い学びに協働して取り組む教育の充実
- ②生徒の成長を促す評価方法の改善
- ③カリキュラム・マネジメントを取り入れた学校教育の改善
- ④ICT活用による学びの充実
- ⑤特別活動等の活性化

##### (2) 社会とつながり貢献する力の育成

- ①社会の一員としての自覚と責任を育む教育の推進
- ②グローバル人材の育成
- ③キャリア教育の推進
- ④学校の枠を越えた学びの充実

##### (3) 生徒一人ひとりに応じた多様な教育の推進

- ①学びに向かう力を育む教育の推進
- ②特別支援教育の充実
- ③定時制教育・通信制教育の充実
- ④外国人生徒教育の充実
- ⑤経済的に不利な環境にある生徒の支援

##### (4) 地域で学び地域を活かす教育の推進

- ①地域を学び場とした教育の充実
- ②大学等と連携した教育の推進
- ③産業界と連携した職業教育の推進
- ④地域に根ざした防災教育の推進

##### (5) 新しい学びと多様で専門的な教育を実践する教職員の育成

- ①授業力の向上
- ②多様な教育課題への対応
- ③組織運営体制の強化による教育活動の質の向上

#### 5 社会の変化に対応した県立高等学校のあり方

##### (1) 各学科の活性化

- ①現状と課題
- ②各学科の活性化の方向性

##### (2) 県立高等学校の規模と配置

- ①基本的な考え方
- ②高等学校の規模と配置

## 2 県立高校活性化の具体的な取組状況

中学校卒業生数の急速な減少が見込まれるなか、すべての高等学校において、これからの社会を担う人づくりの視点を重視しつつ、これまで以上に生徒一人ひとりの学習ニーズに応えるとともに、学校の魅力が高まるよう、学校の状況や生徒の実態に応じ、注力すべき方向を見定めて、取組を進めています。

### (1) 小規模校の活性化の取組

1 学年 3 学級以下の高等学校は、学校ごとに活性化協議会を設置し、地元市町、産業界等の地域関係者と具体的方策を協議し、一体となって活性化の取組を推進しています。活性化の取組期間は、3 年間を原則とし、入学者の状況や生徒の進路実現の状況、活性化の取組など、その活動と成果について毎年度検証を行い、3 年経過後に、その後の方向性を検討します。

#### ① 学校別活性化協議会設置校

1 学年 2 学級：あけぼの学園、飯南、昴学園、鳥羽、水産

1 学年 3 学級：白山、南伊勢（南勢・度会）、志摩、紀南

#### ② 各学校の活性化の方向性と主な取組

次の 3 つの観点から活性化の具体的取組を検討

- ・現在の学校の強みをさらに高める方策 → 「改善」
- ・生徒が魅力を感じるこれまでにない新たな方策 → 「改革」
- ・生徒の生き生きとした姿や活性化を進める学校状況を伝える方策 → 「PR」

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
あけぼの学園	①小規模校の特徴を生かした丁寧で親身な指導と生徒が安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板等の ICT 機器の活用促進や基礎学力定着に向けた授業力向上、考査前および考査後の補習など、きめ細かな学習支援【改善】</li> <li>・1 年生の全戸家庭訪問実施による保護者との連携や、出身中学校や地域関係機関への訪問（月 1 回以上）による連携、情報提供の強化【改善】</li> </ul>
	②総合学科の特徴を生かし、生徒の個性やニーズ、自主性を大切にして特色ある実践的な教育を展開し、地域で活躍できる人材を育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のまちづくり協議会が主催する取組（黒豆栽培・地域物産展など）への参加や、地域課題の解決に向けた取組（伊賀市まちづくりラウンドテーブルなど）への参加【改革】</li> <li>・卒業生や企業採用担当者等による講話や伊賀市 IGABITO 育成事業での講師人材バンクの作成を検討【改革】</li> </ul>
	③幅広い情報発信による地域に根ざし地域から信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校への美容や製菓などの出前授業や地域行事への積極的な参加により生徒の姿を地域に発信【PR】</li> <li>・地域や保護者に総合学科成果発表会、高校生活入門講座や公開授業への参加を促進【PR】</li> </ul>
<p>&lt; 1 年目の取組の成果 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校や地域との交流活動や学びの成果を発表することで、生徒が自信を持って前向きに学校生活を送ることにつながった。</li> <li>・中学校訪問やマスコミ等への情報提供の増加、部活動の活躍を伝える懸垂幕の設置により、生徒の頑張りが学校や地域の取組について地域の理解が進んだ。</li> </ul>		

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
飯南	①総合学科独自のキャリア教育における探究活動一層の推進により、地域社会で主体的・協働的に活躍できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の推進による中学校からの連続性を視野に入れた課題発見、課題解決のための力の育成【改善】</li> <li>・地域を学びの舞台とし、地域の活性化・地域の課題解決に向けた探究活動の導入【改革】</li> </ul>
	②幅広い学力層の生徒の進路希望を実現するための組織的な指導、個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎学力を測定するためのツールを活用した学力分析及び3年間の指導計画の作成【改革】</li> <li>・保育・看護等進学希望者に対する個別学習指導やインターンシップの実施など、進学指導の強化【改革】</li> </ul>
	③地域との連携、小中学校との交流の深化による地域の学校としての価値の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の成果としての「いいなんゼミ発表会」ダイジェスト版を上映するなど、地域に生徒の成長の姿を発信【PR】</li> <li>・地域の様々な立場の人が保小中高までの一貫した地域完結の仕組みについて語り合える地域懇談会の開催【改革】</li> <li>・地元の小中学校と連携したコミュニティ・スクールの導入検討【改革】</li> </ul>
	<p>1年目の取組の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別指導の強化により、保育系・看護系への進学実績が向上した。(保育系短大5人・看護1人)</li> <li>○ 同窓会の支援を得て製作した「いいなんゼミ発表会」ダイジェストビデオをPRに生かしている。</li> <li>○ 松阪市広報紙への特集記事掲載や活性化を考える地域懇談会の開催等、松阪市の支援を得られた。</li> </ul>	
昂学園	①教育課程の全面的な見直しと授業改善の推進により、基礎学力の定着・向上と生徒の希望進路を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の空き時間の削減、履修単位数の増加【改善】</li> <li>・教育課程の全面的な見直し【改革】</li> <li>・朝の読書タイムを見直し、週2回「朝学」を導入【改革】</li> </ul>
	②地域連携による学校活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携のため、寮生に加え、通学生にも地域ボランティアへの参加を促進【改善】</li> <li>・2年生の就職希望者全員を対象として、地元企業にインターンシップを実施【改革】</li> </ul>
	③地元の協力による外部教育力の導入と、校内研修等による教職員の教育実践力向上につとめ、教職員が継続的に勤務できる条件整備を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上、地域連携、学校PR、寮活性化の4つのワーキンググループの議論を深め、学校改革の具体策を策定【改善】</li> <li>・先進地・先進校へのベンチマーキングを実施【改革】</li> </ul>
	④全寮制の長所を活かし、寮の教育活動だけでなく、住環境の整備充実を行い、寮の一層の魅力化を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮に整備したWi-Fi環境でタブレットやスマートフォン端末を用い、スタディ・サプリを効果的に活用した学習タイムを実施し、学力の向上と学習習慣を確立【改善】</li> <li>・寮環境の改善のため生徒居室の壁・床を修繕【改善】</li> </ul>
<p>&lt;1年目の取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に設置された4つのワーキング部会に全教員が参加することで、職員の改革への意識が向上した。</li> <li>・寮での学習支援としてスタディサプリ活用の環境整備を行うとともに、寮環境の改善が図られた。</li> </ul>		

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
鳥羽	①希望する進路実現に必要な基礎学力を身につけ、自信や自己肯定感を持てる教育活動・環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒に分かりやすい授業（ユニバーサルデザイン）と基礎学力の定着に向けた授業研究【改善】</li> <li>鳥羽市内の小中学校との連携（ボランティア活動や部活動の交流等）に向けた中高連絡会での協議【改革】</li> </ul>
	②身だしなみや、挨拶をはじめとした社会性を備えた生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員、生徒、保護者等の参加による朝のあいさつ活動を計画実施【改善】</li> <li>商工会議所との連携による旅館業者との懇談など、地域の事業者等とのキャリア教育の連携【改革】</li> </ul>
	③総合学科の枠組みと観光などの地域資源を活用した学習をとおして、地域で活躍できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の資源を活用した活動（外部講師による地域学習8回、フィールドワーク12回）、デュアルシステムの導入や、観光プランづくりなどの地域の事業所との共同によるサービス開発【改革】</li> <li>地域研究サークル「とばっこくらぶ」が、地域の観光資源を主体的に発掘し、県内外に発信【改革】</li> <li>国際観光都市に位置する学校として、英会話に関する学習機会の充実に向けた同窓会による英会話講座の実施【改革】</li> <li>「とばびと活躍プロジェクト」と連携し、地域の実情をふまえた課題解決型授業の実施【改革】</li> </ul>
	<p>1年目の取組の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光業や福祉産業の事業所においてデュアルシステムを実施するなど、地域を学び場とした魅力ある学習体制づくりが進んだ。</li> <li>生徒の成果発表等を行う機会の拡充、学校通信の配付やマスコミ・広報への記事掲載が、学校の取組の周知につながった。</li> </ul>	
水産	①水産高校の魅力をもとにした情報発信で地元地域外からの入学者増を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元地域以外での学校説明の機会の拡充と公共メディア等の活用により、水産の魅力を県内小中学生に発信【PR】</li> <li>志摩市と連携し、民宿等を活用した下宿の開拓や定期バスの増便など通学手段の整備を促進【改善】</li> </ul>
	②水産・海洋関連のインターンシップを進め、専門教育を中心とした資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業現場での実習機会を拡充するなど、地元の水産・船舶関連機関等と連携した取組の推進【改善】</li> <li>資格取得の授業や補習で、海技士資格をはじめ、一人3資格以上の取得を目指し、多様な資格取得を促進【改善】</li> </ul>
	③水産高校の使命を踏まえ、一人ひとりの希望に応じた進路を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門業界で活躍する講師等による講演会を実施し、専門分野への就職希望者の意識を醸成【改善】</li> <li>第3学年において進路希望調査を毎月実施し、個別相談を進め、早期の進路決定を推進【改善】</li> </ul>
	④「学びの基礎診断」も視野に入れた基礎学力の定着・向上方策を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産関係の高校の設定科目である「水産海洋基礎」を活用して基礎学力を定着【改革】</li> <li>新学習指導要領や「学びの基礎診断」に対応できるよう、校内での検討会の開催や校外での研修会に積極的に参加し、早期に研究や準備に着手【改革】</li> </ul>
<p>&lt;1年目の取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20人程度の下宿の新規開拓により、広範囲からの入学生を受け入れる体制の整備を進めた。</li> <li>専門性を活かした地元企業との新商品開発や各種イベントに参加するなど、公共メディアによる積極的なPRを行うことができた。</li> <li>校内でも同窓会の協力を得た施設設備の更新や航海実習中の評価方法の改善などが進んだ。</li> </ul>		

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
白山	①基礎学力の定着・向上を目指した授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒に分かりやすい授業の展開（ユニバーサルデザイン化）、「朝学」に地歴公民科を導入し内容を充実【改善】</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニングの導入による生徒のコミュニケーション力の向上【改革】</li> </ul>
	②長期インターンシップの充実や外部人材の活用など、コミュニティ・スクールとして地域と連携した学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期インターンシップ（3年次）の充実と受入事業所の拡大（新たに5件）【改善】</li> <li>・「白山フランク」などの商品開発や「ジビエ津ぎょうざ」の包装用シール作成など、地域と協働した取組の推進【改善】</li> <li>・教科「福祉」の授業や生徒への講演会講師として外部人材を積極的に活用、地域の事業所等と連携した体験交流学习【改善】</li> </ul>
	③生徒の社会性や自己有用感を高めるために、部活動活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の部活動の充実発展を狙った「部活動活性化プロジェクト」（硬式野球部）の立ち上げ。【改革】</li> <li>・同窓会等による部活動活性化への支援の検討【改革】</li> </ul>
	④生徒の学習活動や成果を積極的に発信するなど、地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中学校教職員への授業公開や、新聞・広告等のマスコミを活用し、生徒の姿を積極的に発信【PR】</li> <li>・通学の利便性を高めるため、地域のコミュニティバスの増便や駅の整備要望の検討【改善】</li> </ul>
<p>&lt; 1年目の取組の成果 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期インターンシップの受入事業所の拡大、地域人材を講師とした教育活動の増加など、地域と連携した学びが充実した。</li> <li>・地域住民等との交流の増加、マスコミや中学校への情報提供活動の活発化等をとおして、学校のイメージアップが図られた。</li> </ul>		
志摩	①地域の教育資源活用による特色ある教育活動を展開し、生徒のキャリア育成や志摩市を担う当事者意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校独自科目「志摩学」の創設（志摩に関する事項を教科横断的に取り入れ、系統的な学びになるよう工夫）【改革】</li> <li>・商工会が主催する企業展への参加や地域のイベント等への参画など、地域と協働した活動の展開【改善】</li> </ul>
	②すべての生徒に対する基礎学力の定着と進路実現に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び直し」教材や基礎学力診断テストの活用による生徒個々の状況に応じた基礎学力の定着と向上【改善】</li> <li>・地域の小学生への学習サポートを通じて、生徒自らの学習意欲や学力の向上を図る取組の検討【改革】</li> </ul>
	③国際コースを進学グループと実用的な英語習得グループに分けて、より効果的な指導を展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で必要とされている医療系人材の育成につなげるため、志摩市民病院の支援による体験学習の実施【改革】</li> <li>・英会話力を身に付けるため、海外語学研修や志摩市を訪れる外国人への英語による観光案内の実施【改革】</li> </ul>
	④地域への情報発信と中学生への丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志摩市広報紙での学校紹介や市主催の「水高・志摩高フェスタ」等を通じて学校の様子・生徒の姿を発信【PR】</li> </ul>
<p>&lt; 1年目の取組の成果 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志摩市内の中学校卒業生数は減少しているが、志摩高校への入学者数を維持することができた。</li> <li>・志摩市広報紙への学校情報の掲載（隔月）や海外留学奨学金制度の創設等、志摩市の支援を得られた。</li> <li>・高校の取組の認知度把握・改善のための中学生・保護者アンケートを志摩市教委の協力で実施できた。</li> </ul>		

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
南伊勢 (南勢)	①コミュニティ・スクールとして南伊勢町や地元産業界と連携した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）に、より多くの生徒が関わるよう取組内容を改善【改善】</li> <li>・年間を通じた町内でのインターンシップの実施【改革】</li> <li>・町内小中学校に高校生が訪問し、SBP活動や茶道部の活動成果を発表し交流活動を展開【改善】</li> <li>・町行政等と連携した防災教育を実施【改善】</li> </ul>
	②高校生の自己有用感が高まり中学生にとってあこがれるモデルとなるよう、町内中学校とのより深い交流活動を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同清掃作業や部活動、生徒会活動などで南勢中学校と連携し、中高一貫教育を充実【改善】</li> </ul>
	③度会校舎との交流、及びICTを使った教育活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度会校舎との遠隔授業導入に向けた検討。ICT機器を活用し、両校舎をつないで始業式・終業式を開催【改革】</li> <li>・度会校舎との部活動の合同実施の拡充【PR】</li> <li>・度会校舎との合同企業説明会や合同面接会の開催【改善】</li> </ul>
	④丁寧な指導による確実な基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善による基礎学力の定着・向上【改善】</li> </ul>
	⑤一人ひとりの希望に応じた進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の支援による放課後の進学・就職対策課外授業の実施に加え、就職活動支援員の配置、海外研修参加者への補助、大学進学給付型奨学金の補助【改善】</li> <li>・新しい大学入試試験に対応し、準備委員会を設置【改善】</li> </ul>
	⑥町内住民の南勢校舎に対する理解を深めるPR戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町営バス通学定期の無償化や下校バス増便の実施【PR】</li> <li>・町内の中学3年生とその保護者へ本校舎の理解を深めるアンケートを実施【改善・PR】</li> <li>・南伊勢町地域力創造アドバイザー事業を活用し、町外入学者対策、SBP活動の更なる活性化を実施【改革】</li> </ul>
	<p>&lt;1年目の取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢校舎の生徒が町内中学校に出向いてSBP活動、生徒会活動、部活動、防災教育などを行うことにより交流が深まった。</li> <li>・地域と連携して学ぶ「地域創生アドバンスコース」を設置し、授業の魅力化に取り組むことができた。</li> <li>・南伊勢町の全面的な支援を得て、町営バスの無料化や大学進学給付型奨学金の創設などの直接的な経済支援に取り組んだ結果、町内からの入学生が5名から20名に大幅に増加した。</li> </ul>	
南伊勢 (度会)	①地域の教育資源の活用による地域への愛着や地方創生への参画意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ・社会福祉協議会・町体育協会でのボランティア活動の実施【改革】</li> </ul>
	②公務員志望生徒への指導や資格取得指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員志望や各種資格取得希望者のための教養コースの設置と課外授業の実施、町の支援のもとで公務員対策講座や度会町役場でのインターンシップの実施【改革】</li> </ul>
	③南勢校舎との交流活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢校舎との遠隔授業導入に向けた検討【改革】</li> </ul>
	④度会中学校とのより深い交流活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトテニス部や陸上部を中心とした合同部活動の実施や学校行事での相互交流の実施【改善】</li> </ul>
	⑤丁寧な指導による確実な基礎学力の育成と個々の希望に応じた進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験の活用や校内研修活性化を通じた授業改善、町の支援による放課後の進学対策課外授業の実施【改善】</li> <li>・度会町商工会と連携し校内での事業所説明会の実施【改革】</li> </ul>
	⑥町内住民の度会校舎に対する理解を深めるPR戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町広報に毎月連載で小中学校との交流を掲載【PR】</li> <li>・町内行事での学校宣伝ブースによるPR【PR】</li> <li>・学校紹介リーフレットによる近隣中学校等への広報【PR】</li> </ul>
	<p>&lt;1年目の取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町の支援による塾講師派遣やタブレット貸与など、進学対策課外や自学自習教材の活用が進んだ。</li> <li>・H30年度から実施予定の教養コース（進学・公務員）、実践コース（就職）に向けて教育体制が整った。</li> <li>・生徒の町主催のイベント参加や地元中学との交流が進みPRにつながった。（地域のボランティア等へのべ64名参加）</li> </ul>	

校名	活性化の方向性	活性化の主な取組
紀南	①自己有用感の高まりやコミュニケーション力の育成に向けた「地域を学び場」とする学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元行政等との連携・支援のもと、特産品「みかん」の生産・商品開発等を体験的に学び、課題解決力を育成する学校設定科目「地域産業とみかん」の実施【改革】</li> <li>・社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育成する長期インターンシップの受入事業所の更なる開拓【改善】</li> </ul>
	②幅広い学力層の生徒の進路実現に向けた個に応じた指導の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学を中心とする基礎学力の定着と、看護系進学希望者に対する補充学習の強化等、個に応じた指導体制の構築【改善】</li> </ul>
	③地域への愛着を育むことができるよう、地域への理解を深める学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への理解と愛着をより深めるため、地域の歴史・文化・産業等を学ぶ学校設定科目「東紀州学」において、地域人材を活用した体験・探究活動を実施【改善】</li> <li>・地域の様々な分野で活躍する人を講師に招き、生き方や思いに学ぶ学習の実施【改革】</li> </ul>
	④進学先として生徒が、目的意識を持って選ぶよう学校の魅力を広く地域に発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明のための中高生徒交流会の実施、小中学校や地域イベントでの学習成果や部活動の成果等の積極的発信【PR】</li> <li>・コミュニティ通信「紀南の風」の町内全戸配布や「紀南高校ニュースレター」の中学3年生への配付による学校・生徒の活動の積極的発信【PR】</li> </ul>
	<p>&lt; 1年目の取組の成果 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域産業とみかん」の教育課程開発や生徒輸送に御浜町や地元企業等の支援を得られた。</li> <li>○ 進学希望者の25%を占める看護系進学希望者全員が進路実現できた。(看護9人・準看2人)</li> <li>○ 中学校との連携による学校説明のための中高生徒交流会等、PR機会を拡大することができた。</li> </ul>	



## (2) 産業界や地域と連携した職業教育の推進

### ① 四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科

平成30年4月、四日市工業高等学校にもものづくり創造専攻科（機械コース、電気コース）を開設し、1期生11人が入学しました。

#### 1 専攻科でめざす教育

- 産業界の技術の高度化やグローバル化に対応して生産現場で即戦力として活躍できる人材を育てます。
- 幅広い知識とともに、課題解決力を身に付けた生産現場でリーダーとなる技術者を育てます。

#### 2 ものづくり創造専攻科の特色

##### (1) 企業と連携した教育

教育課程の40%以上を実習科目（総合実習、プログラミング演習、修了研究）とし、協働パートナーズの協力を得ながら実習を実施します。

##### <1年次>

- 総合実習：毎週地元企業等での研修や社会人講師による講義を実施  
地域の様々な企業の業務内容に対する理解  
企業で必要となる幅広い知識の習得

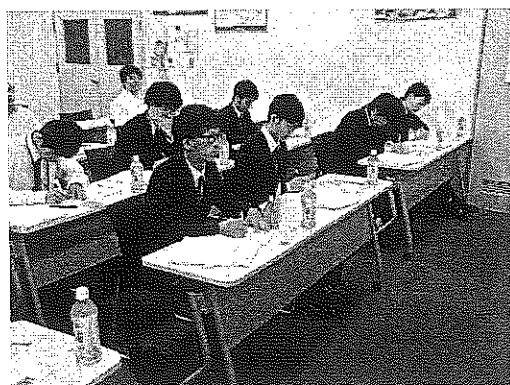
- プログラミング演習：DMG森精機の技術者による技術指導を実施

##### <2年次>

- 総合実習：デュアルシステムにより企業で加工や品質管理等の技術を習得
- 修了研究：企業から提示されたテーマ等について研究

##### (2) 協働パートナーズ（現在26社、4団体）との連携

協働パートナーズでは、人材育成会議を開催（9月、3月予定）し、企業が求める人材像を把握するとともに、企業と連携した人材育成の在り方、専攻科の実習内容等について意見をいただきながら、専攻科の教育活動を改善します。



企業研修の様子



工場見学の様子

(3) 大学と連携した教育

①三重大大学の教員による授業

1年次前期：「機械設計」、「電磁気学Ⅰ」

1年次後期：「機械要素設計」、「電磁気学Ⅱ」

※2年次の「技術者倫理」、「流体力学」等についても調整中

②鈴鹿大学の英語の講座を受講

1年次前期：鈴鹿大学の「ビジネス英語」、「TOEICの英語」を受講

1年次後期以降：引き続き鈴鹿大学で英語の講座を受講

(4) 資格取得

産業現場で活躍できる技術・技能を身につけるため、企業で求められる技能士等の資格取得を推進します。(1年次：3級技能士 → 2年次：2級技能士)

機械コース：機械加工(フライス盤)、機械製図(CAD)

電気コース：電子機器組立、シーケンス制御

なお、電気コースでは2年間かけて第三種電気主任技術者の取得をめざします。

(5) 専任教員の配置

平成30年度：教諭2名、実習助手1名を配置しています。

3 海外インターンシップについて

○ 日程：平成30年9月下旬に1週間で実施予定

○ 研修先：フィリピン 株式会社伊藤製作所

・ 地元企業への理解を深めるため、協働パートナーズのなかで、「みえ国際展開に関する基本方針」で国際展開に重点的に取り組む地域であるASEAN地域に海外拠点のある企業で研修します。

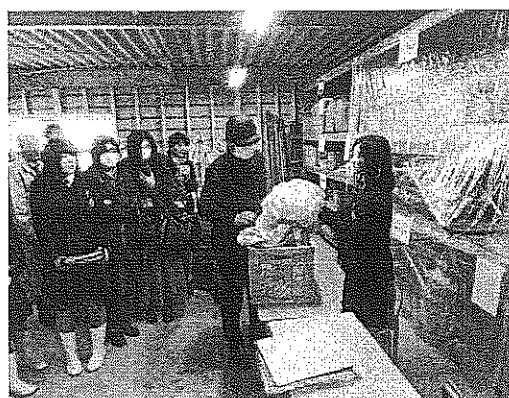
・ 海外で働くための語学力の必要性を理解するとともに、海外の人とのコミュニケーションスキルを実践の中で磨くため、英語を公用語としている当企業で研修します。

※ 海外インターンシップの成果については、県内の工業高校に海外の状況を伝える機会を設けるとともに、11月に開催する高校生フェスティバルの中で発表します。

## ② 農業学科におけるGAPに関する教育

平成29年に開催された「三重県GAP推進大会」以降、各農業高校においてGAP教育への取組を進めています。明野高等学校では、平成30年3月、県内の高校で初めてJGAP認証を取得しました。(認証農産物：茶)

農業に関する食品安全や環境保全、生産工程管理の取組を学ぶことにより、安全な農産物の生産、加工、農場の改善など主体的に実践する力に加え、国際水準のGAP認証に取り組むことにより、グローバルな視野、コミュニケーション力、主体性、課題解決力を育成します。



< JGAP公開審査の様子(平成30年3月9日) >

### 1 GAP認証取得

農業高校5校で、継続してGAPに関する学習を進めるため、平成30年度中に下記の認証取得を目指します。

四日市農芸高校と明野高校はアジアGAPに加えて、グローバルGAPの認証取得を目指します。

学校名	GAP	品目	学科	学年・人数	模擬審査	本審査
四日市農芸高校	グローバルGAP	穀類(米)	生産技術コース	3年8人(課題研究) 2年30人(総合実習)	6月20日 8月15日	9月中
	アジアGAP	青果物(まこもたけ)	販売情報コース	3年28人(課題研究) 2年17人(総合実習)	7月10日	10~2月
久居農林高校	アジアGAP	青果物(日本なし、ぶどう)	植物コース	3年12人(課題研究) 2年12人(課題研究)	6~8月	10~2月
相可高校	アジアGAP	青果物(かき)	生産経済科	3年9人(課題研究) 2年39人(総合実習)	6~8月	10~2月
明野高校	グローバルGAP	穀類(米)	生産科学科	3年9人(課題研究) 2年38人(総合実習)	7月23日 8月16日	9月12日
	アジアGAP	茶(緑茶、紅茶)	食品科学科	2年9人(課題研究) 1年3人(課題研究)	6~8月	2月
伊賀白鳳高校	アジアGAP	青果物(日本なし、ぶどう)	生物資源科	3年7人(課題研究) 2年20人(総合実習)	7月5日	10~2月

※「課題研究」は年間を通じ、「総合実習」は科目の一部でGAPについて学習します。

## 2 GAPに関する学習

農業学科の1年生全員が、科目「農業と環境」の授業で、GAP教育を年間指導計画に位置づけ、農産物の安全確保、農薬廃棄物の管理等の学習を行います。

また、農業生産を学ぶ生徒は、2、3年生で卒業後に食品加工等、さまざまな分野で生かせるよう、「課題研究」や「総合実習」で、継続してGAPに関する学習を行います。

## 3 地域への発信

生徒がGAP認証取得のための取組やGAPについて学習したことを地域に発信することで、生徒の自信や、学ぶ意欲を高めるとともに、コミュニケーション力や地域の農業を主体的に考える力を身に付けます。

- 農業高校5校の生徒により、GAP認証の取組やGAP認証を取得した農業実践、農業に対する思いなどを、地域や他の高校生に発表する機会を設けます。
- 各農業高校では、生徒が文化祭等でGAP認証取得に関する取組を発表します。

## 4 福島県との交流

農業の復興に携わる生徒と意見交換したり、互いの取組の発表をすることで、他県のGAPの取組状況を知ることや、多様な考えに触れ、互いに刺激しあい、取組の改善につなげることにより、より高い意欲の醸成につなげます。

- 福島県のGAPに取り組む高校生が明野高校、相可高校を訪問し、本県の農業高校生と交流します。
- 平成30年10～11月に、各学校の文化祭等で両県の農業高校の農産物をPRするために交換販売します。県教育委員会主催の産業教育フェアにおいても、本県の農業高校の生徒が、福島県の農産物を販売します。
- 本県の農業高校5校の代表5名が福島県の学校を訪問します。高校生がGAPに関する学習で学んだことから何が身に付いたか、今後農業にどのように取り組むべきかについて意見交換します。

### ③ 伊賀白鳳高等学校建築デザイン科

建築・土木の専門教育にかかるニーズをふまえ、平成31年4月に現行の「工芸デザイン科」を「建築デザイン科」に改編します。

#### 1 学科の目標

建築に関する基礎的な知識及び技術・技能を習得するとともに、デザイン力や木材等の加工技術を身に付け、建設産業等の分野で活躍できる人材を育成します。

#### 2 設置コース

##### ○ 建築・インテリアコース

木材加工技術を中心に、建築に関する実践的な知識・技術を身に付けた建設関連分野で活躍する人材を育成します。

##### ○ デザインコース

設計製図、素描やデザインなどの専門的な知識・技術を身につけた社会の課題をデザインの力で解決できる人材を育成します。

#### 3 学習内容

建築に関する歴史、設備、建築物の計画、都市計画等について学ぶ「建築計画」と、生活環境の保全、環境に関する法律、環境対策技術等について学ぶ「環境工学基礎」の科目を全ての生徒が学びます。

さらに、建築・インテリアコースでは、建築材料、木・鉄筋コンクリート・鋼構造等について学ぶ「建築構造」や、各種工事、工事用機械・器具、建築積算等について学ぶ「建築施工」の科目も学びます。

#### 4 建築インテリアコースの特色

##### ○ 実習内容

木材加工や測量、インテリア・デザインなどの要素実習、建築模型の製作や建具・家具製作、ビジュアルデザインなどの総合実習、NC加工やGPS測量、3D-CADなどの先端的技術に対応した実習などにより、実践的な知識と技術を習得します。

##### ○ 資格取得

2級建築施工管理技士及び2級土木施工管理技士資格の「指定学科」とすることで、実地試験に必要な実務経験年数が「4年6か月以上」から「3年以上」に短縮されます。また、国土交通大臣が指定する建築に関する科目（20単位以上）を履修することで、2級建築士及び木造建築士の受験に必要な実務経験年数が「7年以上」から「3年以上」に短縮されます。さらに、測量の実習等により知識・技術を身に付け、測量士補の資格取得も可能となります。

##### ○ 地域と連携した学び

測量の実習では、地域の測量士から実践的な指導を受けます。また、希望者は、3年次の「実習」及び「課題研究」の科目において、「デュアルシステム」による地域の事業所等での現場実習を1年間を通して週1日行い、学校では学ぶことのできない技術・技能を習得します。

### (3) 学校の枠を越えた学びの充実

#### ① みえ未来人育成塾

平成30年度の「みえ未来人育成塾」は、参加者のディスカッションのスキルアップを図ることを目的として、英語によるディスカッションを行う際の心構えについて学ぶとともに、講演等により、地球温暖化問題の現状、四日市公害の歴史、I C E T Tで行われてきた国際的な環境技術移転の取組に対する理解を深めました。

なお、講演やディスカッション等は全て英語で行われました。

#### ア 日時・場所

##### ○ 1日目

日時：平成30年6月2日（土）10時から16時30分まで

場所：四日市公害と環境未来館

##### ○ 2日目

日時：平成30年6月3日（日）9時30分から17時まで

場所：三重県鈴鹿山麓研究学園都市センター

（公財）国際環境技術移転センター（I C E T T）

#### イ 参加者数

56名（県立高校生8校25名、私立高校生3校12名、留学生7名、大学生4名、ALT8名）

#### ウ 講師

武庫川女子大学 准教授 清水 利宏 氏

南山大学 非常勤講師 チャールズ エドワード スクラグス 氏

四日市公害と環境未来館 中丸 寛仁 氏

I C E T T 地球環境部事業推進課 喜瀬 明子 氏 他1名

#### エ テーマ

「私たちを取り巻く温室効果ガスによる気候変動問題（地球温暖化問題）」

#### オ 参加者の感想

アンケートでは、「みえ未来人育成塾」に参加して「満足」又は「どちらかという満足」と参加者全員が回答しました。また、次のような感想がありました。

- ・ 留学生やALTの話から、外国における地球温暖化の現状を深く知ること、自分に何ができるのかを考える機会となりました。
- ・ ディスカッションの仕方について多くのことを学ぶことができ、積極的に自分の考えを発信することができました。
- ・ 参加者同士が助け合いながらディスカッションを進めることにより、コミュニケーション力を高めるとともに、他校の生徒との友情を育むことができました。
- ・ 英語でディスカッションを行うことの難しさと楽しさを知ることができました。
- ・ 英語が話せるとより多様な人々と交流できるので、スピーキング力を向上させるよう努力したいと思いました。



英語によるディスカッション

## ② 高校生地域創造サミット

高校生が地方創生や地域活性化の重要性について理解し、地域のことを主体的に考え行動する意欲や地域とともに課題解決に取り組む姿勢を身につけることを目的として開催しました。参加した高校生が地元産業を中心にフィールドワークを行い、提示された地域課題に対する解決策についてグループで討議を行い、その内容を南伊勢町への提言として取りまとめ、南伊勢町長に提出しました。

### ア 日時・場所

平成29年12月26日（火）11時から27日（水）16時まで（1泊2日）

南伊勢町立南勢中学校及び宿泊施設「海ぼうず」

### イ 参加者数

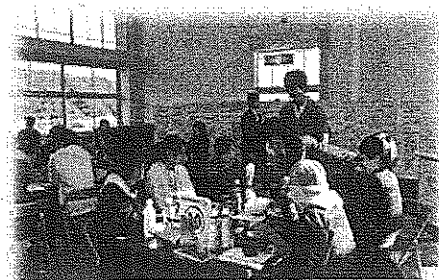
92名（県立高校生28校64名、県内私立高校生3校12名、県外高校生5校16名）

### ウ アドバイザー

三重大学副学長 西村 訓弘 氏

### エ 内容

- ・ 南伊勢町の現状を知るために、10班に分かれて10ヶ所で漁業・果樹栽培・観光などの産業についてフィールドワークを行いました。
- ・ 1日目のナイトセッションでは、「地域の資源や特色を活かして自分らしく生きるためには」というテーマでパネルディスカッションや意見交流を行い、考えを深めました。
- ・ 2日目のグループディスカッションでは、12の班に分かれて、「地域資源を活かした仕事でどのように生計を立てるか」や「都市部では実現できない充実した人生のあり方とは」等の切り口から、テーマについての議論を深め、地域の課題解決や活性化のアイデアをまとめました。
- ・ グループディスカッションで出されたアイデアをポスターセッションで共有するとともに、各班から出されたアイデアを「南伊勢町を変えていくための8つの行動」として提言にまとめ、南伊勢町長に提出しました。



グループディスカッション



ポスターセッション

アンケートの結果では、サミット全体をとおして「満足」又は「どちらかというと満足」との回答が98.8%でした。また、次のような感想がありました。

- ・ 様々な高校の人と活動し、今までにない考え方に触れ、地域活性化について深く考えることができた。
- ・ 南伊勢町の課題や取組について発見し、知ることができたので、自分の地域でも活かしていきたい。

平成30年度は、平成30年12月26日（水）から27日（木）に鳥羽市で開催（会場：鳥羽高校）します。県内外の高校生が集い、鳥羽市が提示する地域課題に対して、鳥羽市にある資源（「食」、「漁業・海女漁」、「景観」、「施設」、「離島」「史跡・旧跡」等）を生かした活性化策を考えます。



南伊勢町長への提言

### ③ みえ自然科学フォーラム

平成 28 年に三重県で開催された第 10 回国際地学オリンピック日本大会の成果をふまえ、子どもたちが自然科学分野について日頃取り組んでいる研究成果を発表しあったり、先進的な研究等に触れたりすることで、子どもたちの自然科学に対する興味・関心を高め、「探究的な活動」を県内に普及することを目的として開催しました。

#### ア 日時・場所

平成 30 年 2 月 11 日（日） 総合文化センター

#### イ 参加者数

344 名（高校生 190 名、小中学生 41 名、保護者 34 名、その他 79 名）

#### ウ 内容

##### ○ 中学生・高校生による研究成果発表

県内の高校生が、自ら設定した課題に対し、フィールドワークや実験を通じて取り組んだ「探究的な活動」の研究成果を発表し、5つの観点（課題の設定、研究計画、研究の実施方法、発表の構成、発表方法）で最も優れた発表に対して最優秀賞を授与しました。

##### ○ 県立高校卒業生による講演会

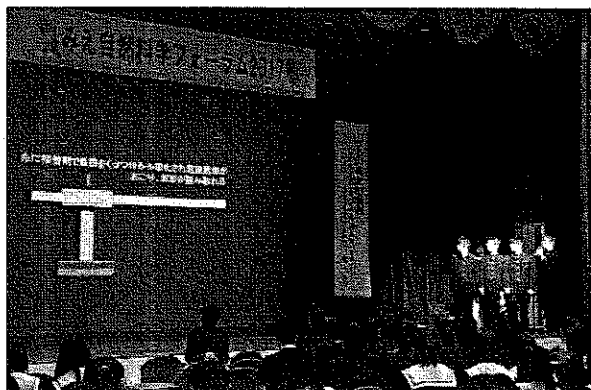
伊勢高校 2 年生のときに第 59 回日本学生科学賞の内閣総理大臣賞を受賞した矢口太一さんが、在学中に取り組んだセミの研究への想いや、日本代表として出場したアメリカのインテル国際学生科学技術フェアで学んだこと、これからの研究の展望について講演しました。生徒からは、「自分がやりたいことをとことんやり抜くことの大切さを知りました。」という感想がありました。

##### ○ 京都大学生による小中学生向け科学体験講座

小学生や中学生が、「ぐるぐるスピーカー」や「光るツリー」の作成等を通して科学のおもしろさや不思議さを体験しました。

参加した児童からは、「いろいろな体験ができ、大学生がやさしく教えてくれて楽しかった。」という感想がありました。

「みえ自然科学フォーラム 2018」は平成 31 年 2 月 16 日に開催予定で、三重の高校生の課題探究能力を高めるとともに、科学好きの小学生、中学生にも参加の裾野を広げていきます。



高校生による研究成果発表



小中学生向け科学体験講座



#### (4) ICT活用による学びの充実

##### ① 名張青峰高等学校

平成28年4月に名張青峰高等学校（普通科文理探究コース、普通科）が、「新時代をたくましく生き抜く未来人を養成する高等学校を」との地域住民の強い願いと熱い期待を受け開校しました。「育む3つの力」として、「未来を拓く力」「グローバル化社会で活躍する力」「人とつながる力」を掲げています。

##### ア ICTを活用した特色ある取組

知識・技能に加え思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成するため、全教室に設置した電子黒板機能付き短焦点型プロジェクターや生徒1人1台タブレットPCを活用して、授業等の効率化、教材等のわかりやすい提示、グループワークや反転学習等のアクティブ・ラーニング型学習の展開に取り組んでいます。

##### ○ 授業における取組

多くの授業で、生徒の解答や意見を生徒用タブレットPCから黒板にプロジェクターで投影し、添削やグループワーク等を行い、主体的・協働的学びやきめ細やかな指導を行っています。

タブレットPCを用いて行った授業アンケートでは、7割の生徒が「授業がわかりやすくなった」と回答しています。また、授業の振り返りやアンケートを効率的に集計することで授業改善に組んでいます。

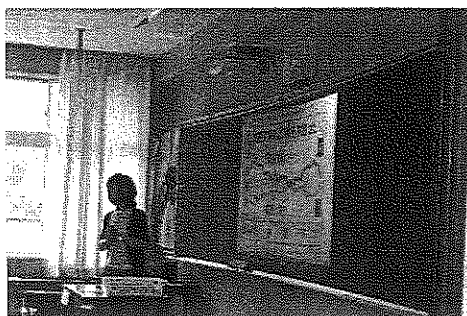
##### ○ タブレットを用いた海外の高等学校との連携

Skype for Business（スカイプ・フォー・ビジネス）等のアプリを利用して、平成28年度から、ニュージーランドの高等学校と連携しています。

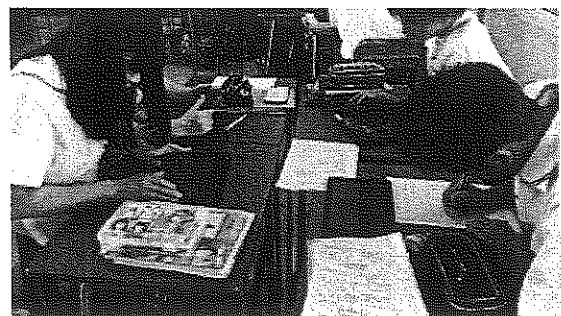
##### イ 平成30年度の取組

文部科学省事業「次世代の教育情報化推進事業」（情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究）を受け、電子黒板機能付き短焦点型プロジェクターや生徒1人1台タブレットPC等のICT機器の活用をさらに推進します。

- ・ 各教科がICT機器を活用することで効果的な学習方法を開発するとともに、その改善活動を行います（教科マネジメント）。
- ・ 各教科の教科マネジメントを学校全体で共有化し、教科横断的な視点で地域に開かれた教育課程の構築を目指します（学校マネジメント）。



ホームルーム教室にプロジェクターを完備



タブレットを使った学習

## ② 遠隔授業（南伊勢高等学校[南勢校舎・度会校舎]での取組）

### ア 目的

生徒の進路保障ができる教育課程の編成や学校間交流による社会性の育成、教育内容の充実による生徒数の確保等を目的にして、ICTを活用した遠隔授業の実践研究を始めています。将来的には遠隔授業で単位認定できることを目指して取組を進めます。

### ※参考（県立高等学校活性化計画より抜粋）

#### 4 県立高等学校活性化のための取組～（1）新しい時代に求められる学びへの変革

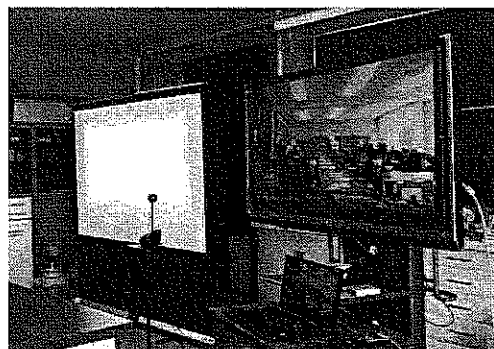
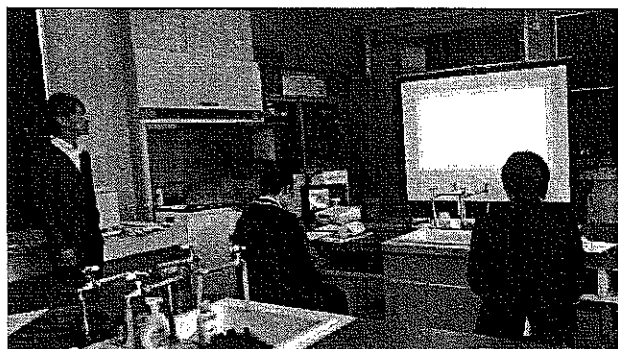
- 小規模な学校で学ぶ生徒のより幅広い教科・科目の受講や学校の枠を越えた交流等、さまざまな教育機会の充実につながるよう、ICTを用いた遠隔授業の研究を進める。

### イ これまでの取組

- 教育委員会事務局によるワーキンググループを設置し、検討を開始
- 教育委員会事務局及び研究協力校（南伊勢高校）教員による先進地ベンチマーキング（高知県）を実施
- 南伊勢高校における遠隔授業の実験的实施（2月21日）
  - ・ 「科学と人間生活」・・・双方向（学校間対話型）遠隔授業
  - ・（発信側）度会校舎 生徒：30名／（受信側）南勢校舎 生徒：4名
- 南伊勢高校の両校舎間で、遠隔システムを使った合同始業式を実施

### ウ 今後予定している取組

- 平成30年度
  - ・ 南伊勢高校において、遠隔授業の実施を他教科にも拡大する。
  - ・ 特別活動（始業式・終業式や人権講演会等の集会など）や生徒会活動・部活動での活用回数を増やす。
  - ・ 南伊勢高校での取組を他校に拡大できるよう、指導案、評価方法、機器のセッティング等についてのマニュアルを整備する。
- 平成31年度
  - ・ 他校でも取り組めるよう研修会を実施



受信側（南勢校舎）の様子